

阪神高速道路の長期維持管理及び更新に関する技術検討委員会  
第4回委員会 議事要旨

日時：平成25年3月28日（木）14:15～16:00

場所：阪神高速道路（株）11F 会議室

出席：委員長：渡邊 英一（京都大学名誉教授）

委員：小林 潔司（京都大学経営管理大学院 教授）

杉浦 邦征（京都大学大学院工学研究科 教授）

森川 英典（神戸大学大学院工学研究科 教授）

欠席：西井 和夫（流通科学大学総合政策学部 教授）

議事：

1. 第3回委員会議事要旨の確認
2. 大規模更新・大規模修繕の基本的な考え方
3. その他

主な意見：

- ・ 検討対象区間の選定において、累積軸数と適用道示の両方を条件としているが、疲労に限らず、材料の経年劣化による対策も必要となることが考えられるため、供用後の経過年数を指標として、累積軸数が少なくても損傷が多い区間は抽出したほうがよい。
- ・ 検討対象構造物は更新が必要なものとそうでないものを安全性の視点で区別したほうがよい。例えばPCポステンT桁は万が一鋼線の一部が破断しても、グラウトによる定着が確保できる場合、直ちに安全性に問題があるということではない。PC鋼材に関してグラウトが充填されているか、鋼材が発錆しているかといった劣化状態を詳細に把握して判断することが重要。
- ・ 大規模更新等の通行止めによる社会的損失の試算をする場合、都市内における交通量と速度の関係において速度低下の反映が十分でない場合と損失額を小さく見積もってしまう可能性がある。
- ・ 今後100年の管理を考えるといわゆる想定外(小頻度しかし重大な)事象（東海・東南海・南海トラフ地震・津波等）にも対応する必要がある。南海・東南海連動地震発生の可能性など関西圏では首都圏よりもっと緊迫した危険性があることを提言に反映したい。大地震時における緊急対応、復興にも重大な影響が及ぶので、道路ネットワークの機能維持の観点からも、そのリスクについて検討・評価する必要があると考えられる。その上ではネットワークの構築も重要な意味を成すことも提言に盛り込みたい。
- ・ 阪神高速の場合、H-BMSを検討しており、PDCAを回すことで精度の向上を図っていくことその他、阪神高速特有の技術系委員会（技術審議会、設計荷重検討（HDL）委員会等）等で取り組んできた系譜を提言に盛り込みたい。

以上